

**令和3年度**

**邑南町水道事業会計決算審査意見書**

**邑南町監査委員**

# 目 次

## 各会計歳入歳出決算審査意見

第 1	審査概要	1
	1. 審査の対象	
	2. 審査の期間	
	3. 審査の方法	
第 2	審査の結果	1
第 3	決算の状況	1
	1. 水道事業の経理	1
	2. 予算執行状況	2
	(1) 収益的収入及び支出 (税込)	2
	(2) 資本的収入及び支出 (税込)	2
	(3) 収支状況 (税抜)	3
	(4) その他の事項	4
	3. 業務状況	7
	(1) 給水状況	7
	(2) 建設改良事業の状況	7
	4. 財政状態について	8
第 4	審査意見	9

# 令和3年度水道事業会計決算審査意見書

## 第1 審査の概要

### 1 審査の対象

令和3年度邑南町水道事業会計決算並びに証書類、事業報告書及び地方公営企業法施行令第23条に定めるその他の書類（キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書）

上記決算について作成すべき書類（決算報告書並びに損益計算書、剰余金計算書、剰余金処分計算書及び貸借対照表）

### 2 審査の期間

令和4年6月30日から7月20日まで（14日間）

現地踏査：令和4年7月29日（1日間）

### 3 審査の方法

この決算審査にあたっては、決算書類が地方公営企業法その他関係法令に準拠し、関係帳票及び証書類の計数と合致しているかを確かめるとともに、予算の執行及び事業の経営が、適正かつ効率的に行われているかを主眼として実施した。

なお、本事業の経営については、その動向を把握するため、決算内容を分析し、職員の説明を求め、慎重に審査した。

## 第2 審査の結果

審査に付された決算書類は、関係法令に準拠して適正に作成され、関係帳票及び証書類との照合の結果、計数は正確であり、また、水道事業の経営成績及び財政状況を適正に表示しているものと認めた。

決算状況及び審査意見については、次のとおりである。

## 第3 決算の状況

### 1. 水道事業の経理

令和3年度邑南町水道事業の経理は、平成29年度から公営企業法の適用を受け

ており、経理はその企業活動を正確に把握するため、営業に係る活動を損益取引（収益的収支）と、営業活動以外における資本の増減を資本取引（資本的収支）として明確に区分する複式簿記を採用している。

## 2. 予算執行状況

### (1) 収益的収入及び支出（税込）

収益的収入及び支出は、企業の経営活動に伴い発生する収益と、これに対する費用である。

令和3年度の収入にあたる水道事業収益は、予算額4億5,791万8千円に対し、決算額は4億6,394万1千円で、決算額比較は前年度より1,253万5千円（2.8%）の増収となっている。これは、水道料金は減少したものの他会計補助金の増が大きい。

支出にあたる水道事業費用は、予算額4億3,782万2千円に対し、決算額は、4億3,767万8千円で、決算額比較は前年度から574万4千円（1.3%）の減となっている。この要因は、減価償却費、企業債利息の減が大きいことと、人件費の一部を資本的支出に計上するようにしたことである。

令和3年度の収益的収入及び支出の執行状況は次表のとおりである。

（単位：千円・%）

区 分	令 和 3 年 度					
	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額との 増減 (A)-(B)	執行率 (B)/(A)	決 算 構成比	備 考
水道事業収益	457,918	463,941	△ 6,023	101.3	100.0	
営業収益	215,190	220,551	△ 5,361	102.5	47.5	
営業外収益	242,728	243,390	△ 662	100.3	52.5	
水道事業費用	437,822	437,678	144	100.0	100.0	
営業費用	382,121	382,158	△37	100.0	87.3	
営業外費用	55,523	55,520	3	100.0	12.7	
予備費	178	0	178	0.0	0.0	

### (2) 資本的収入及び支出(税込)

資本的収入及び支出は、将来にわたり経営の安定を図るための設備投資に係る収入と、これに対する費用である。

令和3年度における資本的収入は、予算額2億7,843万2千円に対し、決算額は2億2,233万6千円で、決算額比較は前年度より5,324万2千円

(31.5%)の増収となっている。これは、企業債の増と国庫補助金を受けたことが大きい。

資本的支出は、予算額4億5,255万5千円に対し、決算額は3億9,792万円で、翌年度へ繰越した事業が5,294万3千円ある。決算額比較は前年度より6,393万5千円(19.1%)の増となっている。支出の内訳は、建設改良費が6,470万6千円の増、企業債償還金が77万1千円の減となっている。なお、令和3年度から人件費の一部を資本的支出で計上している。

この結果、資本的収入が資本的支出に対して不足する額1億7,558万4千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額158万7千円、過年度分損益勘定留保資金9,642万4千円、当年度分損益勘定留保資金7,757万3千円で補填されている。

令和3年度の資本的収入及び支出の執行状況は、次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令 和 3 年 度						
	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度 繰越額 (C)	予算額との 増減 (A)-(B)-(C)	執行率 (B) / (A)-(C)	決 算 構成比	備 考
資本的収入	278,432	222,336		56,096	79.9	100.0	
企業債	122,200	66,400		55,800	54.3	29.9	
国庫補助金	33,139	33,139		0	100.0	14.9	
他会計補助金	119,102	119,102		0	100.0	53.6	
工事負担金	3,694	3,695		△1	100.0	1.6	
他資本的収入	297	0		297	0	0	
資本的支出	452,555	397,920	52,943	1,692	99.6	100.0	
建設改良費	173,386	118,751	52,943	1,692	98.6	29.8	
企業債償還金	279,169	279,169	0	0	100.0	70.2	

### (3) 収支状況(税抜)

令和3年度における経営状況(税抜)は、総収益が4億4,386万1千円に対し、総費用が4億1,915万4千円で、当年度純利益が2,470万7千円となっている。これは、繰入れ基準額の増加により他会計補助金が増えたことが大きい。また、前年度までの未処理欠損金1億5,068万4千円は資本金の減額で処理したため、前年度の繰越利益剰余金はないが、当年度未処分利益剰余金を計上した。前年度と比較した損益の状況は次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	前年との増減 (a)-(b)	伸率 (a)/(b)	備 考
営業収益 (A)	200,530	204,384	△3,854	98.1	
営業費用 (B)	374,762	372,873	1,889	100.5	
営業損失 (C=A-B)	174,232	168,489	5,743	103.4	
営業外収益 (D)	243,331	226,555	16,776	107.4	
営業外費用 (E)	44,392	49,858	△5,466	89.0	
経常利益 (F=D-E+C)	24,707	8,208	16,499	301.0	
特別利益 (G)	0	0	0	0	
総収益 (H=A+D+G)	443,861	430,939	12,922	103.0	
総費用 (I=B+E)	419,154	422,731	△3,577	99.2	
純利益 (J=H-I)	24,707	8,208	16,499	301.0	
前年度繰越剰余金 (K)	0	△158,892	-	-	
当年度未処分利益剰余金 (J-K)	24,707	△150,684	-	-	2年度の欠損 金を処理

## (4) その他の事項

## ア 企業債

令和3年度の企業債は、新たな借入が1件6,640万円(利率0.8%)、償還総額は2億7,916万9千円である。この結果、3年度末の状況は、平成5年度以降の借入分65件で、企業債残高26億4,172万5千円となっている。

(単位：千円)

区 分	令和3年度	令和2年度	備 考
当年度企業債借入高	66,400	46,600	
企業債発行総額	6,021,300	6,021,600	
当年度企業債償還高	279,169	279,940	
企業債償還高累計	3,379,575	3,167,106	
年度末企業債残高	2,641,725	2,854,494	

## イ 一時借入金

該当なし

## ウ 流用

「営業費用及び営業外費用の間の流用」は、消費税及び地方消費税の支払分に484千円行っている。また、他の「議会の議決を経なければならない経費の

流用」はない。

エ 他会計からの補助金

邑南町一般会計から収益的収入に1億8,417万5千円、資本的収入に1億1,910万2千円、合計3億327万7千円の補助金があり、それぞれ目的に沿って充当されている。

オ キャッシュ・フロー計算書

当期純利益を起点として、これに調整項目を加減算する事によって、純粋な現金の増減を表示するものである。業務活動によるキャッシュ・フローは2億473万8千円の増、投資活動によるキャッシュ・フローは3,877万2千円の増、財務活動によるキャッシュ・フローは2億1,276万9千円の減で、令和3年度の資金の増減は、3,074万1千円の増となった。

令和3年度のキャッシュ・フロー計算書は、次表のとおりである。

令和3年度邑南町水道事業キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：千円)

1 業務活動によるキャッシュ・フロー

当年度純利益	24,707
減価償却費	243,000
資産減耗費	1,311
賞与等引当金の増減額 (△は減少)	△ 87
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△ 15
長期前受金戻入額	△ 58,266
受取利息及び受取配当金	0
支払利息	43,982
未収金の増減額 (△は増加)	△ 3,400
未払金の増減額 (△は減少)	△2,620
預り金の増減額 (△は減少)	108
小計	248,720
利息及び配当金の受取額	0
利息の支払額	△ 43,982
業務活動によるキャッシュ・フロー	204,738

2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	有形固定資産の取得による支出	△ 109,147
	国庫補助金による収入	30,130
	他会計からの繰入金による収入	114,430
	工事負担金による収入	3,359
	投資活動によるキャッシュ・フロー	38,772
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	66,400
	建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 279,169
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 212,769
	資金増加額	30,741
	資金期首残高	119,084
	資金期末残高	149,825

#### カ 水道料金の収納状況

令和3年度水道料金の収入済額は、2億1,824万円で、前年度に比べ398万6千円（1.8%）減収となっており、収納率も91.0%と0.3ポイント下降している。

うち現年度の収入済額は、2億171万5千円で、収納率は92.3%と0.2ポイント下降しているが、過年度（令和2年度以前）の収入済額は1,652万5千円で、収納率は78.1%と0.1ポイント上昇している。

未収は、金額、件数ともに増加している。

令和3年度の水道料金の収納状況を前年度と比較すると、次表のとおりである

（単位：千円・%）

年度	区分	調定額	収入済額	不納欠損額	未収額	収納率	未収の件数
3	現年度	218,547	201,715	0	16,832	92.3	4,343
	過年度	21,147	16,525	21	4,601	78.1	1,035
	計	239,694	218,240	21	21,433	91.0	5,378
2	現年度	223,251	206,532	0	16,719	92.5	4,238
	過年度	20,133	15,694	11	4,428	78.0	943
	計	243,384	222,226	11	21,147	91.3	5,181



キ 給水停止の措置状況

該当なし

3. 業務状況

(1) 給水状況

令和3年度の給水状況は、給水人口が前年度に比べ308人(3.4%)減の8,668人、給水戸数は、3戸(0.1%)増の4,145戸となっている。年間総配水量は前年度に比べ39,015m<sup>3</sup>(2.9%)減、年間総有収水量も24,576m<sup>3</sup>(2.6%)減とともに減少しているが、有収率は70.8%で0.2ポイント上昇した。給水収益が供給にかかった費用に占める料金回収率は55.1%と0.3ポイント下がった。

給水状況を前年度と比較すると、次表のとおりである。

(単位:千円・%)

区 分	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増 減 (a) - (b)	伸 率 (a) / (b)	備 考
年度末給水人口 (人)	8,668	8,976	△308	96.6	
年度末給水戸数 (戸)	4,145	4,142	3	100.1	
年間総配水量 (m <sup>3</sup> )	1,307,401	1,346,416	△39,015	97.1	
一日平均配水量 (m <sup>3</sup> )	3,582	3,689	△107	97.1	
年間総有収水量 (m <sup>3</sup> )	926,152	950,728	△24,576	97.4	
一日平均有収水量 (m <sup>3</sup> )	2,537	2,604	△67	97.4	
有 収 率 (%)	70.8	70.6	0.2P	—	
給水原価 (円 / m <sup>3</sup> )	452.58	444.64	7.94	101.8	
供給単価 (円 / m <sup>3</sup> )	214.55	213.50	1.05	100.5	
料金回収率 (%)	55.1	55.4	△0.3P	—	

また、利用者の設備において、7種の管の口径別に見た構成比率は、最細管の13mmが最も多く、戸数で73.8%、有収水量で55.3%を占めている。

(2) 建設改良事業の状況

令和3年度の建設改良工事は、測量調査等の業務委託が7業務8,898万1千円、改良工事が14工事1,087万6千円、支障移転工事が1件405万9千円であった。

業務委託は布施地区、市木地区、日和地区でそれぞれ配水管布設に向けた測量調査業務・設計業務等、改良工事は比較的少額な工事で老朽管等改修工事、浄水場内ポンプ更新等である。なおこの外に、石見地域、羽須美地域の上水道施設遠

方監視装置整備工事は、資材の調達に時間を要したため年度内の工事完了が困難となり次年度に繰越したが、この上水道施設遠方監視装置について、7月29日に石見地域の現設備の現地踏査を行った。システムが古く、設備の異常時等に素早い対応が出来ない等との説明を受け、出来るだけ早い改修を要請した。

また、保存工事は3地域での量水器取り換え工事を合計932件553万円で実施した。

#### 4. 財政状態について

令和3年度の資産合計は、57億7,544万7千円で、前年度に比べ1億102万4千円（1.7%）減少している。固定資産では償却が増えたため1億3,518万1千円（2.4%）の減少、流動資産では現金が増えたことが大きく3,415万7千円（24.1%）の増加である。負債合計は、42億9,879万3千円で前年度に比べ1億2,573万2千円（2.8%）減少している。これは繰延収益が8,965万4千円増加したが、固定負債で企業債の減少が大きい。

資本金は、今年度1億5,068万4千円の累積欠損金を処理したため、14億5,128万5千円に減少し、資本合計は、今年度の剰余金を加えて14億7,665万4千円となった。

前年度と比較した財政状態は、次表のとおりである。（※金額は税抜き）

（単位：千円・%）

区 分		令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a) - (b)	伸率 (a) / (b)	備 考
資産	固定資産	5,599,621	5,734,802	△135,181	97.6	
	流動資産	175,826	141,669	34,157	124.1	
	資産合計	5,775,447	5,876,471	△101,024	98.3	
負債	固定負債	2,358,054	2,575,326	△217,272	91.6	
	流動負債	315,491	313,605	1,886	100.6	
	繰延収益	1,625,248	1,535,594	89,654	105.8	
	負債合計	4,298,793	4,424,525	△125,732	97.2	
資本金	資本金合計	1,451,285	1,601,968	△150,683	90.6	
剰余金	資本剰余金	662	662	0	100.0	
	利益剰余金	24,707	△150,684	175,391	-	
	剰余金合計	25,369	△150,022	175,391	-	
資本合計		1,476,654	1,451,946	24,708	101.7	
負債・資本合計		5,775,447	5,876,471	△101,024	98.3	

## 第4 審査意見

令和3年度決算は、利益転換した前年度を大幅に上回る当期純利益を計上した。

このことは、営業収支においては、依然とした営業損失がありこれが前年度を上回ったものの、一般会計からの補助金の繰出し基準見直しによる他会計補助金の増加で、営業外収益が営業損失を吸収したことで、当期純利益2,470万7千円を計上している。

前年度までの繰越損失を資本金の減額で処理したことで、前年度からの繰越剰余金等は無く、当期純利益を当年度未処分利益剰余金に計上することになった。

一方で、水道事業を取り巻く状況としては、中山間地域の厳しい条件下で、コストもかかりさらに給水戸数、給水人口にも限界があるため、料金回収率は50%台となっている。また、今年度から示された資産に関する経営指標の、有形固定資産の老朽度合いをみる有形固定資産減価償却率や管路の状態を示す管路経年化率、管路更新率は低い水準にあると思われる。

したがってこのような中でも、町民に安全で良質な水道水の安定的な供給は生活に直結しているため、コストの削減はもちろんより一層の計画的な施設整備、改修計画を立て持続可能な運営に努力を望むところである。